

20 ヨコハマ トリエンナーレ 20 YOKOHAMA TRIENNALE AFTERGLOW 光の破片をつかまえる



プレス資料

2020年6月22日

ヨコハマトリエンナーレ2020に向けて

2020年、私たちは新型コロナウイルス感染拡大という大きな困難に直面しました。展示会場に足を運び、実際の作品を見、多くの人々とよろこびを分かち合うことには価値がある。この大前提が崩れ、アート界は今までにない試練を経験しました。

こうした状況の中、私たちは世界のビエンナーレ、トリエンナーレの先頭を切ってヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」を開催いたします。ここには、今だからこそみなさんとともに考えたいテーマが詰まっています。

アーティストック・ディレクターであるラクス・メディア・コレクティブは、展示の鍵となる重要な言葉をいくつかあげています。

- | | |
|------|--------------------|
| 「独学」 | 自らたくましく学ぶ。 |
| 「発光」 | 学んで得た光を遠くまで投げかける。 |
| 「友情」 | 光の中で友情を育む。 |
| 「ケア」 | 互いを慈しむ。 |
| 「毒」 | 世界に否応なく存在する毒と共存する。 |

いずれも新型コロナウイルス流行下の私たちの経験を予見するかのよう内容です。特に「毒」との共存という考え方は、コロナ後の世界を生きざるをえない私たちにとって示唆的です。

今回のヨコハマトリエンナーレには、30以上の国や地域で活動する60人(組)以上のアーティストたちが参加します。20代、30代が半数を占める若い作家たちが、移動の禁止、物流の停止といった事態を乗り越えて展示を実現させます。ラクス・メディア・コレクティブを含め、海外からのアーティストを招聘できない状況下で、オンライン・ミーティングを重ねながら初日を迎える今回のトリエンナーレは、私たちにとっても大きな挑戦です。

来館される方々にとって、このトリエンナーレが、作品に向き合い、新しい世界を予感するための豊かな実体験の場となることを願っています。

横浜トリエンナーレ組織委員会 副委員長

逢坂恵理子

蔵屋美香

ヨコハマトリエンナーレ2020 「AFTERGLOW 一光の破片をつかまえる」

「AFTERGLOW」というタイトルをめぐって

名前には、たくさんの意味が込められています。何といても、名前は物語の始まりを思い起こさせます。わかっていることと知らないことをたちまち浮き彫りにし、親近感を引き出し、愛情を招く合図となります。また、時間を超えていくものでなくてはなりません。

名前をつけるには時間がかかり、また時間が求められます。空間を共有することが困難な現在の環境のなかで、今回のトリエンナーレに名前をつけるとするならば、どこにでも浸透するような名前が求められる一方で、トリエンナーレのプロセスに持ちこまれる多数で多様な存在の個性性を濁らせて見えにくくしてしまうような圧倒的な力を持つものは回避されなければなりません。このトリエンナーレはテーマをつけることを前提としない取り組みを進めており、またアーティストや一般の人々を巻き込んで、予測のつかない発見、驚き、洞察を前提とした出会いを生み出そうと試みています。そうしたこともあって、私たちラクスが求める名前は、何かを確定する力は弱くとも、泡のごとく生まれては消えるような生き生きとした興奮に満ちた名前を求めています——楽しさ、魅力、冒険、謎に満ちた名前を。

こうしたことを念頭に置いて、私たちは「AFTERGLOW」というタイトルを提案することにしました。それは、光の間隔、輝くような期待、ゆらめく光の流れ、存在と生成の茂みの間を流れるエネルギー、といったものを表しています。

「AFTERGLOW」というタイトルのもとで行われるトリエンナーレは皆さんを、深い探求と予兆が示すゆらめく輝きの中へとお誘いします。そこでは、まだ起こっていないことやこれから起こることを期待したり予測したりすることと、じっくり考えぬくことや主張を押し通そうとすることが混ざり合います。皆さんには、抑制を忘れ、見知らぬものとの出会いから生まれる鮮烈な喜びを見つけていただければと思います。

このトリエンナーレでは、アートは、気まぐれで、人を戸惑わせるようなゲームに興じます。最近、ますます認知されるようになっていく^{ノン・ヒューマン}と楽しげに親しみをかわし、集団の総意と個人の信念の物語を思い起こし、よく知られたさまざまな力が増減するところを観察し、私たちを毒性への恐怖に立ち向かわせようとしています。

ときにそのアートは、私たちを爆発のもたらす発散物の中へ誘うこともあるでしょう。また深海に潜む生命の存在を示す生物発光という信号となることもあれば、ほかの場所では、友情の輝きとなり、ケアのぬくもりとなり、あるいは独学者の目の中にある直観のひらめきとなるのです。

横浜美術館とプロット48を「茂みを発生させる拠点」と考えてみてください。精神と想像力の生

Photo: KATO Hajime



ラクス・メディア・コレクティブ (ヨコハマトリエンナーレ2020 アーティスティック・ディレクター)

物学的多様性のための^{シェルター}臨時避難所なのだ。私たちが「社会的距離」という新しい語彙を学び始めたまさにこの時期に、茂みのことを考えてみてほしいのです——それはパンデミックが広める排他的原則とはまさに正反対のものです。密度、没入、絡み合いといったイメージが頭に浮かびます。茂みの中を歩き回っているときに警戒心が高まるさまについて考えてみるのも面白いでしょう。そうしたときには、時間を経験する速度は遅くなります。変容した時間の経験は、共感というかたちをとることもあります。それは思いやりと同じくらい、他人に^{伝染}伝染りやすいものです——そんなときには、接触や接点^{接点}を認識している状態は、その伝染りやすいものを追放するようなこともなく、安全な状態へと戻るための鍵となります。それは、さまざまなかたちや性向をもつ生命を歓迎しているのです。

今回のヨコハマトリエンナーレ2020は、私たちの多様な世界にある多様な流れを誠意をもって受け入れる態度を示します。その最初の瞬間から皆さんに、世界が液体でできている状況をお見せいたしましょう。確実とされる事態への思い込みを溶かし、ぼやけさせ、また周縁を中心として踊らせましょう。そこでは手つかずの自然はもはや文明に対立するものではなく、文化的倫理にありがちな偏狭さは公然と無視されるのです。

「AFTERGLOW」では、空間を思考と感情の複雑なダイアグラムへと変えるような作品を展示します。それは古代のものと濃厚に接触し、時間に身体をこすりつけながら、不確かな未来を見きわめます。破壊された古代遺跡のかけらをつなぎ合わせて、不思議な物体を復元します。またそれは、異国の温室に育つ巨大な花のように咲き誇ります。不死を求める中に生命を欲求し、その結果桁違いに大きな宇宙に目を向けることを強めます。困難な愛に向ける熱情を廃墟と化した病院の中に見出す一方で、植物や動物のエロティシズムに対する興味を隠しません。

私たちは、この喧騒と静寂の、加速と迂回の織りなす茂みを歩き回ることによって時間の経験が変容してしまうことを、アーティストや仲間たちともどもお約束いたします。この茂みに入るためのチケットは、幾重にも重なり密度の高い時間を想像しつつ、一見それほど重要ではないものにも注意を払うような時間を共有する機会に皆様をお誘いするためのものです。

それは、自らの光を持って、濃密な流れの中で輝く方法を見つけます。

「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」は、21世紀にアートを作り続けることの意味に光を当てます。

[須川善行 訳]

YOKOHAMA TRIENNALE 2020 AFTERGLOW

A name holds so much within it. After all, it evokes scenarios, it conjures the known and the unknown, it draws affinities, it gestures to affections, and it has to travel in time.

A name takes time, and asks for time. In a milieu that challenges our abilities and capacities to be together, the Triennale needed a name that could permeate everywhere, and yet not become a sole force muddying the multiple and diverse presences brought into the Triennale process. With the post-thematic move that this Triennale is working with, and with its attempts to bring in artists and publics into an encounter that is premised on unpredictable discoveries, surprises and discernment, we, Raqs, wanted a name that was low on determinacy but was full of living effervescence — with all its joys, charms, hazards, and mysteries.

With this in mind we proposed the title “Afterglow” a luminous interval, a glowing anticipation, a lambent flow, a charged current of energy between thickets of presence and becoming.

“Afterglow” invites you to be in proximity to the radiant, fluctuating glow of probes and premonitions, blending anticipation and projection with the calmness of rumination and the pugnacity of assertion. It invites you to lose your inhibitions, and find a vivid joy that can come with meeting the unfamiliar.

Here art plays whimsical and yet disorienting sport; it intimates a playful ease with the growing recognition of non-humans; it recalls histories of collective will and individual obstinacy; it observes variations of known forces, and it draws us closer to confront the fear of the toxic.

Sometimes it invites us to be inside the aura of an explosion; somewhere it is the bioluminescent semaphore that signals life in the depths of the ocean; elsewhere it is the radiance of friendship, the glow of care, or the sparkle of sentience in the eyes of an autodidact.

Imagine the Yokohama Museum of Art, and the Plot 48 as ‘thicket hosts’: temporary shelters for the biological diversity of the mind and the imagination. In these times, when we have begun to learn a new vocabulary of ‘social distance’, think of a thicket — the very opposite of the exclusionary principle that a pandemic unleashes. It brings to mind an image of density, immersion, and entanglement. It is also interesting to think about the state of alertness the mind enters into while navigating a thicket. It slows the experience of time. A transformed experience of time can bring forth a form of compassion that is as caring as it is contagious — where contact, and a state of awareness about being in contact, is the key to a return to safety, without the fear of banishment of the contagious. It is welcoming of different forms and propensities of life.

This edition — Yokohama Triennale 2020 — is deliberately hospitable to the diverse currents of our diverse world. From its very first moment it will cajole people to see the world as made of liquid states, dissolving and blurring our hold on fixed certainties, making edges dance as centers, where wilderness is not opposed to civilization, and where there is a defiance to the assumed insularity of cultural ethics.

“Afterglow” presents works that turn space into complex diagrams of thought and feeling. It comes into close contact with the ancient, rubbing against time to discern untested futures. It reconstructs objects of wonder by piecing together the broken shards of archaeological remains. It blooms like a giant flower in an alien greenhouse. It finds desire for life in its search for immortality, and enjoins incommensurable cosmologies. It locates resources for difficult love in an abandoned hospital, even as it wonders on the eroticism of flora and fauna.

We promise, along with our artists and companions, that in navigating this thicket of clamor and silence, acceleration and detour, the experience of time will be altered. The ticket to this thicket is an invitation to a shared time of alertness to minor notes, along with a reverie in populous folds of time.

It finds a way to glow at dense currents, bearing its own light.

“Afterglow” lights up an awareness of what it means to keep making art in the twenty-first century.

ヨコハマトリエンナーレ2020 「AFTERGLOW 一光の破片をつかまえる」

Photo: KATO Hajime



木村 絵理子

(ヨコハマトリエンナーレ2020 企画統括)

展覧会という「茂み」について

ヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW 一光の破片をつかまえる」は、展覧会とともに、それが開催される土地や時間、さらに表現領域から解放し、拡張させる試みとしてのエピソード(註※)を併せて開催するものであり、ここでは主に展覧会で発表される作家・作品の特徴を紹介します。

目下、かつてない不安定な状況下での準備を余儀なくされているヨコハマトリエンナーレ2020に向けて、まるで今の状況を予見するかのようにラクス・メディア・コレクティブが提示したタイトルは、あらゆる物事が複雑に絡み合う世界の中で、思考と知恵の「茂み」の中に流れるエネルギーと、それを自らの手でつかみとろうとする行為を象徴する「光の破片=AFTERGLOW」という言葉です。これは、2019年11月に発表された5つのテキストからなる「ソース」から導き出されたものであり、そこには、人間の探究心や独学で得られた知識、友情や他者への思いやり、有毒なものとの共生といった、既成のヒエラルキーに囚われない価値観が込められています。

では今回発表された参加アーティストたちの作品は、具体的にどのような形で展覧会という「茂み」を形成するのでしょうか。

例えばある一群の作品は、過去に発生した何らかの事象に注目します。その多くは、作家自身やその家族、身近な人たちが体験した出来事に端を発し、そこから世界の歴史や政治だけでなく、科学や医療、生態系の未来など、柔軟かつ自由に思考を拡げ、それぞれの作品世界を展開していきます。またある作品群では、人間の身体がモチーフとなります。身体の脆弱さや他者からの制御。既成の記号的意味を持つ身体が、異なる文脈の中でどのような意味を持ちうるのか。あるいは、また別の記号的意味と合体して変容する場合など、身体そのものの特性やその意味の多様性が提示されます。そしてまた別の作品では、人間の知覚とその認識のメカニズムに目を向けて、私たちが理解している世界というものが、いかに私たちの知覚との相対的関係性の中で成立する、移ろいやすさの内にあるのかを気づかせてくれます。

新型コロナウイルスの世界的流行によって顕在化したのは、その毒性以上に、情報への不信と過信、不確定な未来や他者への恐怖となっているようです。目の前の危機が過ぎ去った時、恐怖の記憶は澱のように人々や社会の其処此処に残っていくかもしれません。こうした世界の中で生き延びていくためには、人間社会のみならず生態系全体の多様性を認め、それぞれが自立して、光を放つように存在することが今まで以上に重要な意味を持つてくるでしょう。ヨコハマトリエンナーレ2020は、現代アートを通じて、私たちそれぞれが不確かな未来への一步を踏み出す「光をつかまえる」力について考える機会となることを目指します。

※エピソードの参加アーティストについては、その一部をP.5の作家リストで発表しています。

参加アーティスト一覧 (計65組)

アーティスト名 (日) ※1	アーティスト名 (英) ※1	生没年	会場	新作 ※2	日本初発表 ※3
ハイグ・アイヴァジアン ◆	Haig AIVAZIAN ◆	1980	プロット 48	○	○
ファラー・アル・カシミ	Farah AL QASIMI	1991	プロット 48	○	○
モレシン・アラヤリ	Morehshin ALLAHYARI	1985	横浜美術館		
ロバート・アンドリュー	Robert ANDREW	1965	横浜美術館	○	○
青野文昭	AONO Fumiaki	1968	横浜美術館	○	
新井卓	ARAI Takashi	1978	横浜美術館	○	
コラクリット・アルナーノンチャイ	Korakrit ARUNANONDCHAI	1986	プロット 48	○	
ローザ・バルバ	Rosa BARBA	1972	横浜美術館		
タイスイール・バトニジ	Taysir BATNIJI	1966	横浜美術館		○
イシャム・ベラダ ◆	Hicham BERRADA ◆	1986	プロット 48	○	○
ニック・ケイヴ	Nick CAVE	1959	横浜美術館	○	○
チェン・ズ (陳 哲)	CHEN Zhe	1989	横浜美術館	○	
ジェシー・ダーリング	Jesse DARLING	1981	横浜美術館	○	○
マックス・デ・エステバン	Max DE ESTEBAN	1959	横浜美術館		○
エヴァ・ファブレガス	Eva FÀBREGAS	1988	横浜美術館	○	○
マリアンヌ・ファーム	Marianne FAHMY	1992	日本郵船歴史博物館	○	○
アリア・ファリド	Alia FARID	1985	横浜美術館		○
ファームィング・アーキテクツ	Farming Architects	2017 設立	プロット 48	○	○
イヴァナ・フランケ ◆	Ivana FRANKE ◆	1973	横浜美術館	○	
ラヒマ・ガンボ	Rahima GAMBO	1986	プロット 48		○
ズザ・ゴリンスカ	Zuza GOLIŃSKA	1990	横浜美術館	○	○
アンドレアス・グライナー	Andreas GREINER	1979	プロット 48	○	
インティ・ゲレロ ◆	Inti GUERRERO ◆	1983	横浜美術館	○	○
ニルバー・ギュレン	Nilbar GÜREŞ	1977	横浜美術館		○
ティナ・ハヴロック・スティーヴンス	Tina HAVELOCK STEVENS	—	プロット 48		○
ジョイス・ホー (何 采柔)	Joyce HO	1983	プロット 48	○	
インゲラ・イルマン	Ingela IHRMAN	1985	横浜美術館	○	○
飯川雄大	IIKAWA Takehiro	1981	プロット 48	○	
飯山由貴	IYAMA Yuki	1988	横浜美術館	○	
岩井 優 ◆	IWAI Masaru ◆	1975	横浜美術館	○	
岩間朝子	IWAMA Asako	—	横浜美術館	○	
金氏徹平	KANEUJI Teppei	1978	横浜美術館	○	
川久保ジョイ	KAWAKUBO Yoi	1979	プロット 48	○	

アーティスト名 (日) ※1	アーティスト名 (英) ※1	生没年	会場	新作 ※2	日本初発表 ※3
レボハング・ハンイエ	Lebohang KGANYE	1990	横浜美術館	○	○
キム・ユン Chol	KIM Yunchul	1970	横浜美術館	○	○
エレナ・ノックス	Elena KNOX	—	プロット 48	○	
ラウ・ワイ (劉 衛)	LAU Wai	1982	プロット 48		
ラス・リグタス	Russ LIGTAS	1985	プロット 48	○	
メイク・オア・ブレイク (レベッカ・ギャロ&コニー・アンテス)	Make or Break (Rebecca GALLO & Connie ANTHES)	1978/1985	横浜美術館	○	○
タウス・マハチェヴァ	Taus MAKHACHEVA	1983	横浜美術館	○	○
カベロ・マラツィ ◆	Kabelo MALATSIE ◆	1987	—	○	○
ナイーム・モハイエメン	Naeem MOHAIEMEN	1969	プロット 48	○	
ジェイムス・ナスミス	James NASMYTH	1808-1890	横浜美術館		
パク・チャンキョン	PARK Chan-kyong	1965	横浜美術館		
アモル・K・パティル	Amol K. PATIL	1987	プロット 48	○	○
アリユアイ・プリダン (武 玉玲)	Aluaiy PULIDAN	1971	プロット 48		○
レーヌカ・ラジーヴ	Renuka RAJIV	1985	横浜美術館	○	○
オスカー・サンティラン	Oscar SANTILLAN	1980	横浜美術館 / プロット 48	○	○
サルカー・プロティック	SARKER Protick	1986	横浜美術館 / プロット 48	○	○
佐藤雅晴	SATO Masaharu	1973-2019	横浜美術館		
さとうりさ	SATO Risa	1972	横浜美術館 / プロット 48	○	
レヌ・サヴァント	Renu SAVANT	1981	プロット 48		○
ツェリン・シェルパ	Tsherin SHERPA	1968	横浜美術館		○
新宅加奈子 ◆	SHINTAKU Kanako ◆	1994	—	○	
エリアス・シメ	Elias SIME	1968	横浜美術館		
レイヤン・タベット	Rayyane TABET	1983	横浜美術館		○
竹村 京	TAKEMURA Kei	1975	横浜美術館	○	
田村友一郎 ◆	TAMURA Yuichiro ◆	1977	—	○	
デニス・タン (陳 文偉) ◆	Dennis TAN ◆	1975	プロット 48	○	
アントン・ヴィドクル ◆	Anton VIDOKLE ◆	1965	プロット 48		
オメル・ワシム&サーイラ・シェイク	Omer WASIM & Saira SHEIKH	1988/1975-2017	横浜美術館	○	○
ミシェル・ウォン ◆	Michelle WONG ◆	1987	—	○	○
ランティアン・シェ ◆	Lantian XIE ◆	1988	横浜美術館	○	○
ジャン・シュウ・ジャン (張 徐 展)	ZHANG XU Zhan	1988	横浜美術館	○	
ジェン・ポー (鄭 波)	ZHENG Bo	1974	プロット 48		

計65組 (2020年6月現在)

※1 ◆: エピソード参加アーティスト 12組
 ※2 ヨコハマトリエンナーレ2020のために新しく制作する作品、すでに発表されたものを本展のために再構成する作品 46組
 ※3 日本で初めて作品を発表する作家 34組

チケット情報

チケットは、日時指定の予約制です。オンラインでチケットをご購入の上、ご来場ください。

ヨコハマトリエンナーレ2020チケット

一般	大学生・専門学校生	高校生	中学生以下
2,000円	1,200円	800円	無料 (事前予約不要)

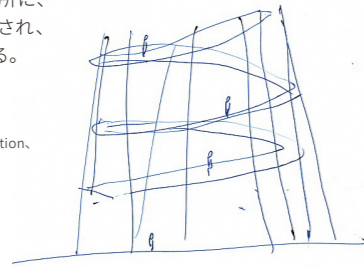
横浜アート巡りチケット

「BankART Life VI」「黄金町バザール2020」も一緒に楽しめて1,200円もお得!

一般	大学生・専門学校生	高校生以下
2,800円	2,000円	BankART、黄金町は無料 ヨコトリ2020は上記金額です

BankART Life VI 都市への挿入

超高層ビルが林立する、みなとみらい21地区。その結節点の数か所に、川俣正の巨大な構築物が挿入され、新たなネットワークが生まれる。



会期：2020年9月11日(金)～10月11日(日)
会場：みなとみらい21地区、BankART Station、R16 Studio
主催：BankART1929
料金：単独パスポートは1,000円(税込)
お問い合わせ：045-663-2812
info@bankart1929.com
www.bankart1929.com

黄金町バザール2020 - アーティストとコミュニティ

京急線高架下周辺に広がる街を舞台に、43組のアーティストが作品を展示。アーティストとコミュニティの関係、その可能性について問いかける。



会期：2020年9月11日(金)～10月11日(日)
会場：初黄・日ノ出町地区(黄金町エリア)
主催：黄金町エリアマネジメントセンター、初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会
料金：単独パスポートは1,000円(税込)
お問い合わせ：045-261-5467
info@koganecho.net
www.koganecho.net

- ・ヨコハマトリエンナーレ2020チケットで、横浜美術館、プロット48、日本郵船歴史博物館に入場できます。
- ・横浜美術館への入場は日時指定が必要です。
- ・プロット48は、【横浜美術館と同日に限り】お好きな時間にご入場いただけます(ただし入場は閉場の30分前まで)。
- ・日本郵船歴史博物館では、出品作家マリアヌ・ファーマの作品が展示されています。チケット提示で横浜美術館の日時指定にかかわらずお好きな日時に入館いただけます。開館日・時間は、横浜美術館、プロット48とは異なります。同博物館WEBサイト(https://museum.nyk.com/)をご覧ください。
- ・横浜アート巡りチケットを購入された方は、9月11日(金)から10月11日(日)までに、BankART Station、黄金町バザール2020会場内インフォメーションにて、チケットを提示の上、「BankART Life VI」「黄金町バザール2020」の会期中有効なパスポートをそれぞれお受け取り下さい。
- ・いずれのチケットも障がい者手帳をお持ちの方と介護の方1名は無料です。(事前予約不要)
- ・団体受入れ及び団体割引はございません。

チケット購入方法

毎月1日午前10時(日本時間)に、翌月分のチケットを発売します。※7月分のみ6月23日10時に発売します。

オンラインによる購入

公式WEBサイトから購入できます <https://www.yokohamatriennale.jp>



会場窓口での購入

オンラインチケットに空きがある場合は、横浜美術館、プロット48のチケット販売窓口で購入できます。(開場日のみ・閉場30分前まで)
※日本郵船歴史博物館、BankART Station、黄金町バザール2020会場内インフォメーションでは、チケットをご購入いただけません。

チケットに関する詳細は、公式WEBサイト「チケット・アクセス」情報をご確認ください。

URL：<https://www.yokohamatriennale.jp/2020/ticket/>

お問い合わせ先

【ハローダイヤル】050-5541-8600(全日8:00-22:00)

新型コロナウイルス感染症対策

来場者の感染予防

- ・入場にあたり、マスクの着用、こまめな手洗い・消毒、体温測定、来場者同士の距離の確保へのご協力をいただきます。
- ・発熱等の風邪の症状がある方、体調がすぐれない方のご来場をお控えいただきます。
- ・会場入口にサーモグラフィを設置し、37.5℃以上の発熱がある場合は、入場をお断りします。

会場内の感染予防

- ・日時指定予約チケットを導入し、来場者同士の距離を保持するよう入場制限を行います。
- ・会場内の換気を行うほか、手が触れる場所の消毒を常時巡回して実施します。
- ・2m間隔を目安にフロアマーカ等を設置し、来場者同士の距離を確保します。

スタッフの感染予防

- ・スタッフ全員が、検温と体調チェックを行います。
- ・マスクやフェイスシールド、手袋の着用等、適切な防護対策を講じます。

皆様に安心してヨコハマトリエンナーレ2020を楽しんでいただけるように準備を進めてまいります。

アクセス

横浜美術館

横浜市西区みなとみらい3-4-1

みなとみらい線(東急東横線直通)みなとみらい駅(3番出口)からマークイズみなとみらい(グランドギャラリー)経由徒歩3分
JR(京浜東北・根岸線)および横浜市営地下鉄(ブルーライン)桜木町駅から(動く歩道)利用・徒歩10分



Photo: KASAGI Yasuyuki

プロット48

横浜市西区みなとみらい4-3-1

みなとみらい線(東急東横線直通)新高島駅(2番出口)から徒歩7分
横浜市営地下鉄(ブルーライン)新高島駅(2番出口)から徒歩7分



Photo: KATO Hajime

日本郵船歴史博物館

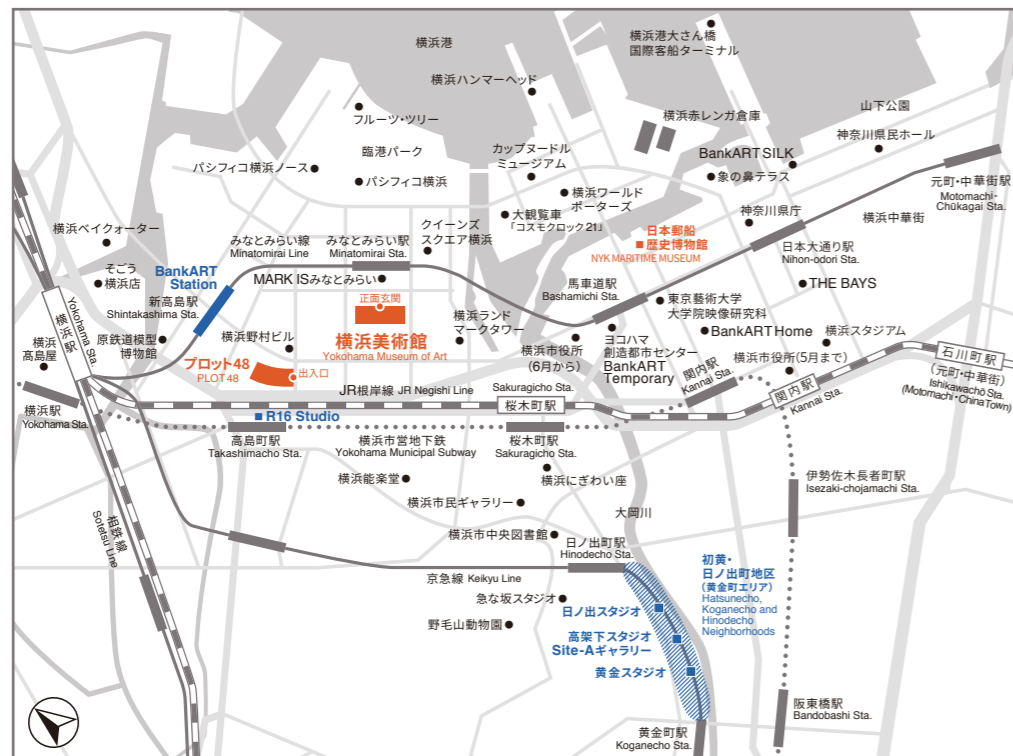
横浜市中区海岸通3-9

みなとみらい線(東急東横線直通)馬車道駅(6番出口)から徒歩2分
JR(京浜東北・根岸線)「関内駅」(北口)から徒歩8分または桜木町駅から徒歩12分



開催概要

タイトル	ヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」 Yokohama Triennale 2020 “Afterglow”
アーティストック・ディレクター	ラクス・メディア・コレクティブ
展覧会会期	2020年7月17日(金) – 10月11日(日) 木曜日休場(7/23、8/13、10/8を除く)、開場日数78日
会場	横浜美術館 横浜市西区みなとみらい3-4-1 プロット48 横浜市西区みなとみらい4-3-1 *下記会場でも作品の展示がございます。 日本郵船歴史博物館 横浜市中区海岸通3-9
開場時間	10:00-18:00 ※10/2(金)、10/3(土)、10/8(木)、10/9(金)、10/10(土)は21:00まで開場 ※会期最終日の10/11(日)は20:00まで開場
主催	横浜市、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、 横浜トリエンナーレ組織委員会



支援／特別協力／後援／協賛／協力／助成／アーティスト支援／認証

[支援]	文化庁(国際芸術フェスティバル支援事業)
[特別協力]	独立行政法人国際交流基金、独立行政法人都市再生機構
[後援]	神奈川県、神奈川新聞社、tvk(テレビ神奈川)
[協賛]	野村総合研究所 Nomura Research Institute 三井不動産グループ MITSUI FUDOSAN GROUP 三菱地所グループ スターツ 大日本印刷
[協力]	Takashimaya 森ビル 横浜銀行 UYENO NTT東日本 大林組 川本工業 Kitamura 崎陽軒 サカタのタネ TORAY NEC 原鉄道模型博物館 横浜信用全庫 NEWoman YOKOHAMA
[助成]	株式会社ACM、京浜急行電鉄株式会社、相鉄グループ、第一織物株式会社、日本郵船歴史博物館 Peatix Japan株式会社、富士ゼロックス株式会社、横浜高速鉄道株式会社、株式会社横浜都市みらい 国家文化芸術基金 National Culture and Arts Foundation ARTWAVE TAIWAN INTERNATIONAL ARTS NETWORK 公益財団法人 大村財団 公益財団法人吉野石膏美術振興財団 ifa Institut für Auslandsbeziehungen EMBASSY OF FRANCE INSTITUT FRANÇAIS EMBASSY OF SPAIN EN JAPON オーストリア文化フォーラム
[アーティスト支援]	Australian Government Australia Council for the Arts 文化部 MINISTRY OF CULTURE, TAIWAN 台北駐日経済文化代表処台湾文化センター
[認証]	beyond 2020

ヨコハマトリエンナーレ2020 実施体制

アーティストック・ディレクター	ラクス・メディア・コレクティブ
横浜トリエンナーレ組織委員会	<p>名誉会長 林 文子 (横浜市長) [代表] 前田晃伸 (NHK会長) 渡辺雅隆 (朝日新聞社代表取締役社長)</p> <p>委員 近藤誠一 ([公財]横浜市芸術文化振興財団理事長) [委員長] 逢坂恵理子 (国立新美術館館長) [副委員長] 蔵屋美香 (横浜美術館館長) [副委員長] 梶健一郎 (NHK事業センター専任部長) 澤 和樹 (東京藝術大学学長) 神部 浩 (横浜市文化観光局長) 高階秀爾 (大原美術館館長) 建島 哲 (多摩美術大学学長) 柄 博子 ([独法]国際交流基金理事) 堀越礼子 (朝日新聞社執行役員 企画事業担当兼企画事業本部長)</p>
事務局	<p>開催本部長 松元公良** 事務局長 五十嵐誠一* 事務局次長 秋山大介 (NHK) 八巻直史 (朝日新聞社)</p>
プロジェクト・マネージャー／事務局次長 管理運営マネージャー／事務局次長 コミュニケーション・マネージャー	<p>帆足亜紀* 梶原 敦** 西山有子</p>
-キュレトリアル・チーム 展示統括／キュレーター 企画統括／キュレーター キュレーター アシスタント・キュレーター	<p>内山淳子* 木村絵理子* 林 寿美 日比野民蓉*</p>
コーディネーション統括/レジストラ キュレトリアル・コーディネーター ([エピソード]コーディネーター) キュレトリアル・コーディネーター (レジストラ) キュレトリアル・コーディネーター キュレトリアル・アシスタント	<p>鈴木祐子 武井麻里子 富安玲子 倉茂なつ子 芝田 遥</p>
テクニカル・コーディネーター	山元史朗
アシスタント・プロジェクト・マネージャー プロジェクト・コーディネーター インターン (2019年度)	<p>福岡綾子* 鈴木慶子 磯田みのり、今関友里香、富永梨紗子</p>
-アドミニストレーション・チーム 運営担当*	<p>赤崎由香**、今西めぐみ**、小川 哲**、小川宣幸**、小山内幸恵*、木村綾夏**、高田 聡** 高林真梨子*、土田香織*、鶴見天平**、半澤奈波、平林乙彦**、丸山晶子**、山田卓広**</p>
広報・プロモーション担当	岩田朋子、岩波 藍**、高橋伸佳*、津金澤恭之**、山際 良、米津いつか
デザイナー	アリアナ・スパニエ
空間構成	MMA inc. 工藤桃子
ラクス・メディア・コレクティブ・リサーチ・アシスタント	カウシャル・アジェイ・サブレイ、今村宙幹 (2019年度)、塩崎恵里香 (2019年度)

※総務、経理、会場調整・運営、次世代育成、社会包摂、市民協働、グッズ、ショップ、地域連携等
*横浜美術館 ([公財]横浜市芸術文化振興財団) 所属 **横浜市所属

開催実績

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
開催年	2001年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年
会期 (開場日数)	9月2日 - 11月11日 (67日)	9月28日 - 12月18日 (82日)	9月13日 - 11月30日 (79日)	8月6日 - 11月6日 (83日)	8月1日 - 11月3日 (89日)	8月4日 - 11月5日 (88日)
主会場 (有料)	[2会場] ・パシフィコ横浜 展示ホール ・横浜赤レンガ倉庫 1号館	[1会場] ・山下ふ頭3号・4号上屋	[4会場] ・新港ピア ・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK) ・横浜赤レンガ倉庫 1号館 ・三渓園	[2会場] ・横浜美術館 ・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK)	[2会場] ・横浜美術館 ・新港ピア	[3会場] ・横浜美術館 ・横浜赤レンガ倉庫 1号館 ・横浜市開港記念会館 地下
テーマ	メガ・ウェイブ ー新たな総合に向けて	アートサーカス [日常からの跳躍]	TIME CREVASSE ータイムクレヴァスー	OUR MAGIC HOUR ー世界はどこまで知ること ができるか?ー	華氏451の芸術: 世界の中心には 忘却の海がある	島と星座とガラパゴス
ディレクター ／キュレーター	アーティストック・ ディレクター: 河本信治 建島 哲 中村信夫 南條史生	総合ディレクター: 川俣 正 [キュレーター] 天野太郎 芹沢高志 山野真悟	総合ディレクター: 水沢 勉 [キュレーター] ダニエル・バーンバウム フー・ファン 三宅暁子 ハンス・ウルリッヒ・オプリ スト ペアトリクス・ルフ	総合ディレクター: 逢坂恵理子 アーティストック・ ディレクター: 三木あき子	アーティストック・ ディレクター: 森村泰昌 [アソシエイト] 天野太郎 大館奈津子 柏木智雄 神谷幸江 林 寿美	コ・ディレクター: 逢坂恵理子 三木あき子 柏木智雄
作家数	109作家	86作家	72作家	77組 79名	65組 79名	38組 1プロジェクト
作品数	113件	84件	66件	337件	444件	344件
総事業費	約7億円	約9億円	約9億円	約9億円	約9億円	約9億円
総来場者数	約35万人	約19万人	約55万人	約33万人	約21万人	約26万人
外国人 来場者数	—	—	—	約3,000人	4,501人	7,059人
中学生以下 来場者数	—	—	—	24,205人	26,381人	26,988人
有料会場 来場者数	約35万人 ※ *チケットは2日間有効 (連続しない日も可) *未就学児無料	約16万人 *チケットは1日に限り有効 *フリーパスあり *中学生以下無料	約31万人 ※ *チケットは2日間有効 (連続しない日も可) *中学生以下無料	約30万人 ※ *チケットは1会場1日有効 *中学生以下無料	約21万人 ※ *チケットは1会場1日有効 *中学生以下無料	約25万人 ※ *チケットは1会場1日有効 *中学生以下無料
チケット 販売枚数	約17万枚	約12万枚	約9万枚	約17万枚	約10万枚	約10万枚
メディア 露出件数	237社以上 (うち海外36社以上) *掲載件数は記録なし	1,089件 (うち海外40件)	1,233件 (うち海外165件)	1,763件 (うち海外139件)	3,899件 (うち海外117件)	6,923件 (うち海外314件)
ボランティア 登録者数	719人	1,222人	1,510人	940人	1,631人	1,474人

※ 第1回、第3回、第4回、第5回、第6回については、有料会場の延べ入場者数

横浜トリエンナーレの基本的な考え方

使命	横浜トリエンナーレは、我が国を代表する現代アートの国際展として、文化芸術創造都市・横浜の発展をリードするとともに、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与します。
目標	<p>アートでひらく ひらかれた現代アートの祭典として、誰もが多様な表現に触れる機会を分野と時代を横断して提供し、世代等を超えた理解を促進します。</p> <p>世界とつながる ナショナルプロジェクトとして、横浜から新しい価値観と新たな文化を継続的に世界に届け、国際交流と相互理解に貢献します。</p> <p>まちにひろがる 文化芸術創造都市として築いている、横浜ならではのまちの力と一体的に推進します。</p>
行動方針	世界水準 次世代育成 社会包摂 市民参加 祝祭性 賑わいづくりと経済活性化

《プレスお問い合わせ先》

ヨコハマトリエンナーレ2020広報事務局(株式会社プラップジャパン) 担当:横澤、本郷、増田
〒107-6033 東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル33F
E-MAIL: yokotori2020pr@prap.co.jp TEL: 03-4580-9109(平日10:00~18:00)

《横浜トリエンナーレ組織委員会お問い合わせ先》

横浜トリエンナーレ組織委員会事務局 広報担当:高橋
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1 横浜美術館内
E-MAIL: press@yokohamatriennale.jp TEL: 045-663-7232(平日10:00~18:00) FAX: 045-681-7606

オンラインチケットで、 ヨコハマトリエンナーレ2020へ!

チケットは、日時指定の予約制です。
オンラインでチケットをご購入の上、ご来場ください。

一般	大学生・専門学校生	高校生	中学生以下
2,000円	1,200円	800円	無料 (事前予約不要)

ヨコトリ2020チケットで〈横浜美術館〉〈プロット48〉〈日本郵船歴史博物館〉に入場できます

※横浜美術館への入場は日時指定が必要です。

プロット48は、【横浜美術館と同日に限り】お好きな時間にご入場いただけます(ただし入場は閉場の30分前まで)

※オンラインチケットに空きがある場合は、横浜美術館、プロット48のチケット販売窓口でも購入できます。(開場日のみ・閉場30分前まで)

※障がい者手帳をお持ちの方と介護の方1名は無料です。(事前予約不要)

※新型コロナウイルス感染症対策のため、開場日や開場時間等に変更が生じる可能性があります。

ご来場前に必ず公式WEBサイトまたは電話で、最新の情報をご確認ください。

2020 ヨコハマ トリエンナーレ AFTERGLOW 光の破片をつかまえる

チケットの購入は
こちら

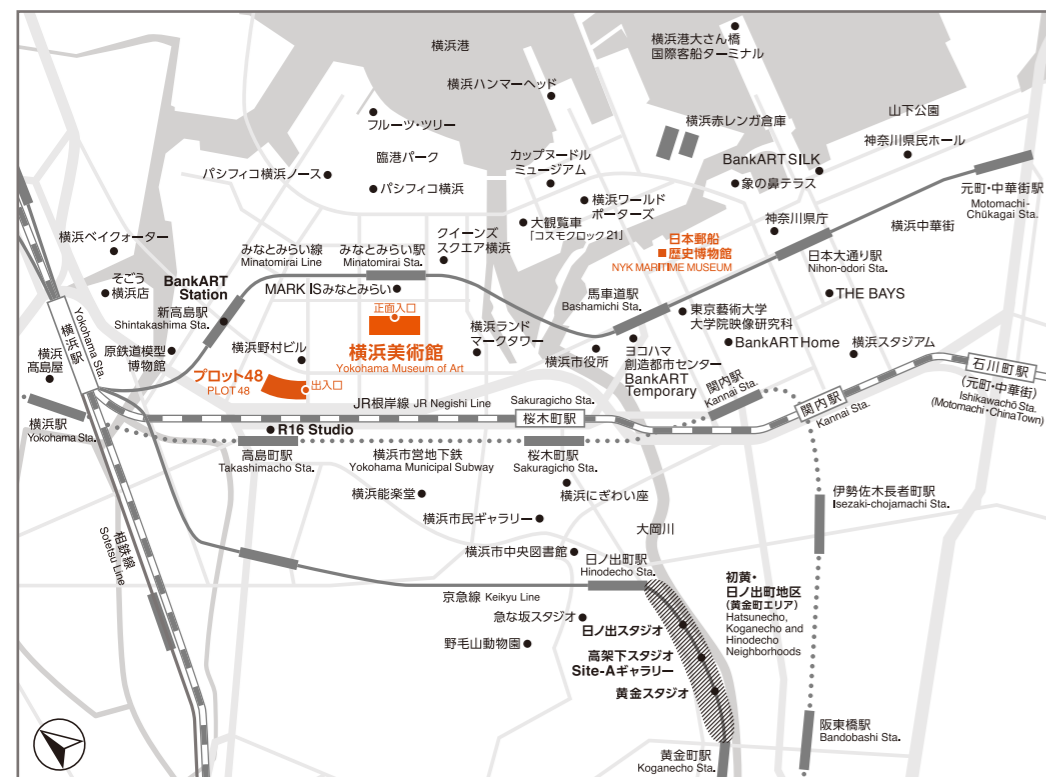


2020 ヨコハマ トリエンナーレ YOKOHAMA TRIENNALE

2020 7.17 (Fri) – 10.11 (Sun)

横浜美術館、プロット48
Yokohama Museum of Art, PLOT 48

光の破片をつかまえる
AFTERGLOW



アクセス

横浜美術館

横浜市西区みなとみらい3-4-1

みなとみらい線(東急東横線直通)
みなとみらい駅(3番出口)からマークイズ
みなとみらい(グランドガレリア)経由
徒歩3分

JR(京浜東北・根岸線)・横浜市営地下鉄
(ブルーライン)桜木町駅から(動く歩道)
を利用、徒歩10分

プロット48

横浜市西区みなとみらい4-3-1

みなとみらい線(東急東横線直通)
新高島駅(2番出口)から徒歩7分

横浜市営地下鉄(ブルーライン)
高島町駅(2番出口)から徒歩7分

日本郵船歴史博物館

横浜市中区海岸通3-9

出品作家マリアンヌ・ファーミの作品が展示されています。チケット提示で横浜美術館の日時指定にかかわらずお好きな日時に入館いただけます。開館日・時間は、横浜美術館、プロット48とは異なります。同博物館WEBサイト(<https://museum.nyk.com/>)をご覧ください。

[アクセス] みなとみらい線(東急東横線直通)馬車道駅(6番出口)から徒歩2分
JR(京浜東北・根岸線)関内駅(北口)から徒歩8分または桜木町駅から徒歩12分

ヨコハマトリエンナーレ2020

「AFTERGLOW – 光の破片をつかまえる」

アーティストック・ディレクター：ラクス・メディア・コレクティブ(Raqs Media Collective)

会場：横浜美術館、プロット48

会期：2020年7月17日(金)～10月11日(日)

休場日：木曜日(7/23、8/13、10/8を除く)

開場時間：10:00～18:00

※10/2(金)、10/3(土)、10/8(木)、10/9(金)、10/10(土)は21:00まで開場

※会期最終日[10/11(日)]は20:00まで開場

[主催] 横浜市、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社
横浜トリエンナーレ組織委員会

[支援] 文化庁(国際芸術フェスティバル支援事業)

[特別協力] 独立行政法人国際交流基金、独立行政法人都市再生機構

[後援] 神奈川県、神奈川新聞社、tvk(テレビ神奈川)

[助成] 財団法人国家文化芸術基金、公益財団法人大林財団、公益財団法人吉野石膏美術振興財団
IFA、在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、スペイン大使館、オーストリア文化フォーラム

[アーティスト支援] オーストラリア・カウンシル・フォー・ジ・アーツ、台北駐日経済文化代表処台湾文化センター

[協賛] 日産自動車株式会社、株式会社野村総合研究所、三井不動産グループ、三菱地所グループ
株式会社JVCケンウッド、スターツグループ、大日本印刷株式会社、株式会社高島屋 横浜店
森ビル株式会社、株式会社横浜銀行、上野トランステック株式会社、NTT東日本、株式会社大林組
川本工業株式会社、株式会社キタムラ、株式会社崎陽軒、株式会社サカタのタネ、東レ株式会社
NEC、原鉄道模型博物館、横浜信用金庫、株式会社ルミネ ニュウマン横浜店

[協力] 株式会社ACM、京浜急行電鉄株式会社、相鉄グループ、第一織物株式会社、日本郵船歴史博物館
Peatix Japan株式会社、富士ゼロックス株式会社、横浜高速鉄道株式会社、株式会社横浜都市みらい



www.yokohamatriennale.jp

[お問い合わせ] ハローダイヤル：050-5541-8600(8:00-22:00)

いま最も刺激あふれる現代アートは、横浜から世界へ

Catching the Fragments of Light in the “Afterglow”

ヨコハマトリエンナーレは、3年に一度開催される現代アートの国際展です。ヨコハマトリエンナーレ2020では、「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」と題し、目まぐるしく変化する世界の中で、大切な光を自ら発見してつかみ取るかと、他者を排除することなく、共生のための道を探るすべについて、みなさんと一緒に考えます。本展を企画するのは、長年にわたって世界で活躍するインドの3人組アーティスト集団「ラクス・メディア・コレクティブ」です。日本で初めて作品を発表するアーティストはもちろん、本展のために新たに制作される作品やプロジェクトを多数紹介し、いま、最も刺激に満ちた現代アートをお楽しみいただけます。

Yokohama Triennale 2020 “Afterglow” will present artworks and projects in ways that will encourage individuals to pursue their own curiosities, illumine life in their own ways, and participate in a world that co-exists with toxicity. This edition is directed by Raqs Media Collective, a collective of three artists based in India. It will include artists who are presenting in Japan for the first time as well as new commissions and deliver the most exciting contemporary art to the world from Yokohama.

展覧会出品作家 / Exhibiting Artists (2020年7月現在)

- ハイグ・アイヴァジアン Haig AIVAZIAN
- ファラー・アル・カシミ Farah AL QASIMI
- モレシム・アラヤリ Morehshin ALLAHYARI
- ロバート・アンドリュウ Robert ANDREW
- 青野文昭 AONO Fumiaki
- 新井卓 ARAI Takashi
- コラクリット・アルナーノンチャイ Korakrit ARUNANONDCHAI
- ローザ・バルバ Rosa BARBA
- タイスィール・バトニジ Taysir BATNIJI
- イシャム・ベラダ Hicham BERRADA
- ニック・ケイヴ Nick CAVE
- チェン・ズ(陳哲) CHEN Zhe
- ジェシー・ダーリング Jesse DARLING
- マックス・デ・エステバン Max DE ESTEBAN
- エヴァ・ファブレガス Eva FABREGAS
- マリアンヌ・ファーミ Marianne FAHMY
- アリア・ファリド Alia FARID
- ファームング・アーキテクト Farming Architects
- イヴァナ・フランケ Ivana FRANKE
- ラヒマ・ガンボ Rahima GAMBO
- ズザ・ゴリンスカ Zuza GOLINSKA
- アンドレアス・グライナー Andreas GREINER
- インティ・ゲレロ Inti GUERRERO
- ニルバー・ギュレシ Nilbar GÜREŞ
- ティナ・ハヴロック・ステイヴンス Tina HAVELOCK STEVENS
- ジョイス・ホー(何采采) Joyce HO
- インゲラ・イルマン Ingela IHRMAN
- 飯川雄大 IIKAWA Takehiro
- 飯山由貴 IIYAMA Yuki
- 岩井 優 IWAI Masaru
- 岩間朝子 IWAMA Asako
- 金氏徹平 KANEUJI Teppei
- 川久保ジョイ KAWAKUBO Yoi
- レボハンク・ハンイエ Lebohang KGANYE
- キム・ユンチョル KIM Yunchul
- エレナ・ノックス Elena KNOX
- ラウ・ワイ(劉衛) LAU Wai
- ラス・リグタス Russ LIGTAS
- メイク・オア・ブレイク(レベッカ・ギャロ&コニー・アンテス) Make or Break (Rebecca GALLO & Connie ANTHERS)
- タウス・マハチェヴァ Taus MAKHACHEVA
- ナイーム・モハイエム Naeem MOHAIEEM
- ジェイムス・ナスミス James NASMYTH
- パク・チャンキョン PARK Chan-kyong
- アモル・K・パティル Amol K. PATIL
- アリユアーイ・プリダン(武玉玲) Aluay PULIDAN
- レーヌカ・ラジーヴ Renuka RAJIV
- オスカー・サンティラン Oscar SANTILLAN
- サルカー・プロティック SARKER Protick
- 佐藤雅晴 SATO Masaharu
- さとुरりさ SATO Risa
- レヌ・サヴァント Renu SAVANT
- ツェリン・シェルパ Tsherin SHERPA
- エリアス・シメ Elias SIME
- レイヤン・タベット Rayyane TABET
- 竹村 京 TAKEMURA Kei
- デニス・タン(陳文偉) Dennis TAN
- アントン・ヴィドクル Anton VIDOKLE
- オメル・ワシム&サーイラ・シェイク Omer WASIM & Saira SHEIKH
- ランティアン・シェイ Lantian XIE
- ジャン・シュウ・ジャン(張徐展) ZHANG XU Zhan
- ジェン・ポー(鄭波) ZHENG Bo



レボハンク・ハンイエ Lebohang KGANYE
 《ケ・サレ・テン(今もここにいる)》(スタイル)
 Ke Sale Teng (I am still here), 2017
 ©LEBOHANG KGANYE, Courtesy of AFRONOVA GALLERY



ニック・ケイヴ Nick CAVE
 《回転する森》Kinetic Spinner Forest, 2016
 ©Nick Cave, Photo by James Prinz,
 Courtesy of the artist and Jack Shainman Gallery



ニルバー・ギュレシ Nilbar GÜREŞ
 《鞍馬》「知られざるスポーツ」より(部分) Pommel Horse, from the series “Unknown Sports” (detail), 2009
 ©Nilbar Güreş, Courtesy of Galerist



エヴァ・ファブレガス Eva FABREGAS
 《ポンピング》Pumping, 2019



イシャム・ベラダ Hicham BERRADA
 《Présage(予兆)》(スタイル) Présage (still), 2007~
 ©ADAGP Hicham Berrada. Courtesy the artist and kamel mennour, Paris/London,
 Photo by Hicham Berrada

アントン・ヴィドクル Anton VIDOKLE
 《宇宙市民》(スタイル) Citizens of the Cosmos (still), 2019
 Courtesy of the artist, Asakusa and Vitamin Creative Space



さとुरりさ SATO Risa
 《本日も、からっぽのわたし #1》I who am empty again today #1, 2019
 ©Risa Sato, Courtesy of ZOU-NO-HANA TERRACE, Photo by 427FOTO

展覧会のほかに実施される「エピソード」の参加作家やその詳細については、ヨコハマトリエンナーレ2020の公式WEBサイトで最新情報をご覧ください。Please go to our website for the latest information on the series “Episodó” to find out about its participating artists and the details of the events.